

# 「森の芸術祭 晴れの国・岡山」

## 基本計画

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」実行委員会

令和5年5月24日

## 目次

---

1	開催趣旨	2
2	芸術祭コンセプト	3
3	開催概要	4
	(1) 名称	4
	(2) 会期	4
	(3) 開催エリア	4
	(4) 主催	4
	(5) アートディレクター	5
	(6) ロゴマーク	6
4	プロジェクトの構成	7
5	広報	8
	(1) 方針	8
	(2) 取組内容	8
6	受入環境の整備・来場者の対応	9
	(1) 方針	9
	(2) 取組内容	9
7	サポートスタッフ	10
	(1) 方針	10
	(2) 取組内容	10
8	企業協力・協賛	11
	(1) 方針	11
	(2) 取組内容	11
9	鑑賞券・オフィシャルグッズの展開	12
	(1) 方針	12
	(2) 取組内容	12
10	文化施設、文化イベントとの連携	13
	(1) 方針	13
	(2) 取組内容	13
11	観光振興事業	14
	(1) 方針	14
	(2) 取組内容	14
12	スケジュール概要	15

## 1 開催趣旨

---

岡山県北部には、中国山地の雄大な自然、旧街道の宿場町や城下町として栄えた歴史ある街並み、古くから受け継がれた伝統芸能、多彩な農産物など、瀬戸内海沿岸部とは異なる風景、文化、魅力的な地域資源が数多くあります。

これらの地域の魅力をこれまで以上に広く認知してもらうため、私たちは新たな切り口として「アート」が秘める大きな力に注目しました。

近年、全国各地で芸術祭が盛り上がりを見せており、県北部においても、美作三湯芸術温度など、アートを基軸とした地域活性化の取組が広がっています。アートには、新たな視点で地域の魅力を引き出し、地域を元気にする力があります。

こうした力を活用し、国際芸術祭「森の芸術祭 晴れの国・岡山」の開催をきっかけとして、県北部の魅力を国内外に広く発信し、訪れた方に特別な体験を提供したいと考えています。

本芸術祭では、国境、人種、性別等の垣根を越えた、多様なアーティストの作品に出会うことができます。さらに、作品を通じて、作者の感性やメッセージに触れることで、自身の想像力を刺激し、新たな価値観が生まれ、芸術文化の素晴らしさに気づくことができます。このような特別な体験は、訪れた方にとって大きな財産になると同時に、舞台である県北部は、素晴らしい思い出の地として刻まれるでしょう。

また、アート作品を核に、観光資源との周遊も生まれ、地域全体の観光消費拡大と交流人口の増加につながるものと考えています。

地域の方々にとっても、アーティストや観光客との非日常的なふれあいは、地域の潜在的な魅力を再認識し、より一層、地域を誇りに感じるきっかけになると確信しています。

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」が、岡山ならではの、県北部ならではの国際芸術祭として、観光振興、文化振興、そして地域振興の新たな起点となるよう、県全体で取り組んでいきます。

## 2 芸術祭コンセプト

---

古代より大和と出雲を結ぶ出雲街道が東西に延び、近世には城下町・宿場町として栄えたこの地には、さまざまな伝統建築や工芸、芸能などのレガシーが残されています。大地や森からは果物や木材などの恵みがあり、その豊かさをサステイナブルにするためのさまざまな試みがなされており、なかでも木質バイオマス発電などの森林資源を生かした取り組みはSDGsの先駆モデルとして評価されています。また蒜山高原をはじめ、美作三湯、鍾乳洞など、過度に観光地化されていない悠々とした時空間は、エコロジー思考における新しい可能性を秘めています。

森の芸術祭という名称は、温暖な気候、豊かな水や資源、食など、私たちが生きる上での大切な要素を満たしているこの地域の、自然の恵みや文化、人々が集まる場所としての多様性と豊かさを象徴する「森」からきています。

本芸術祭は、その「森」がもたらす「恵み」を芸術の力で未来に向けて活性化することを目的とし、「本当に必要な資本とは何か？」を問いかけます。美術館や記念館や学校などの文化施設、水やエネルギー、食の供給といった生活のインフラ、自然環境を共通の資本と考え、アーティストのみならず、建築家、科学者、民俗学者といった専門家も交え、地域の人々の協力を得ながら「新しい資本」をつくりあげていきます。

芸術は多様な考えを反映するとともに、これを人々に共感させ、新しい世界やものの見方に向けての想像力を養います。それは「驚き」「感動」「わくわく感」「ときめき」「生きていることの喜び」「深く感じ考えることの充足感」をもたらします。県北というひとつのエコロジーが芸術のエネルギーを得て、人々の心や感性をリフレッシュさせる「場」に変容します。晴れの国の森の住民たちの祝祭は、それを祝う祭となります。

アートディレクター 長谷川 祐子

### 3 開催概要

---

(1) 名称

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」

(英語表記) Forest Festival of the Arts Okayama: Clear-Skies Country

(2) 会期

2024年9月28日(土)～同11月24日(日)

(3) 開催エリア

津山市、高梁市、新見市、真庭市、美作市、新庄村、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町、美咲町(うちアート作品設置市町村は津山市、新見市、真庭市、鏡野町、奈義町)

(4) 主催

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」実行委員会

会 長 伊原木隆太(岡山県知事)

副 会 長 太田昇(真庭市長)

〃 戎斉(新見市長)

〃 藤原乗将(西日本旅客鉄道(株)理事 中国統括本部岡山支社長)

顧 問 小倉弘行(岡山県議会議長)

アートディレクター 長谷川祐子

構成団体 岡山県、津山市、高梁市、新見市、真庭市、美作市、新庄村、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町、美咲町、西日本旅客鉄道(株)、(公社)岡山県観光連盟、美作国観光連盟、(公社)岡山県文化連盟、岡山県教育委員会、大学コンソーシアム岡山、岡山県市長会、岡山県町村会、岡山県経済団体連絡協議会、(一社)岡山県商工会議所連合会、岡山県経営者協会、(一社)岡山経済同友会、岡山県中小企業団体中央会、岡山県商工会連合会、(公社)岡山県バス協会、(一社)岡山県タクシー協会、全日本空輸(株)岡山支店、日本航空(株)岡山支店、(一社)日本旅行業協会中四国支部岡山地区委員会、(一社)全国旅行業協会岡山県支部、岡山県旅館ホテル生活衛生同業組合

## (5) アートディレクター

### 長谷川 祐子

金沢 21 世紀美術館 館長 /  
東京藝術大学 名誉教授

キュレーター／美術批評。京都大学法学部卒業。東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了。水戸芸術館学芸員、ホイットニー美術館客員キュレーター、世田谷美術館学芸員、金沢 21 世紀美術館学芸課長及び芸術監督、東京都現代美術館チーフキュレーター及び参事を経て、2021 年 4 月から金沢 21 世紀美術館館長。文化庁長官表彰（2020）。



主な企画展・国際展に、第 7 回イスタンブール・ビエンナーレ「エゴファーガル」(2001 年)、第 4 回上海ビエンナーレ (2002 年)、第 29 回サン・パウロ・ビエンナーレ (2010 年)、第 11 回シャルジャ・ビエンナーレ「re-emerge, toward a new cultural cartography (リ・イマージ：新たな文化地図をもとめて)」(2013 年)、第 7 回モスクワ・ビエンナーレ「Clouds&Forest」(2017 年)、第 2 回タイランド・ビエンナーレ (2021 年) など。

主な著書に、『キュレーション 知と感性を揺さぶる力』、『「なぜ？」から始める現代アート』、『破壊しに、と彼女たちは言う：柔らかに境界を横断する女性アーティストたち』、『ジャパノラマ-1970 年以降の日本の現代アート』、『新しいエコロジーとアート-「まごつき期」としての人新世』など。

(6) ロゴマーク



デザインコンセプト

芸術祭のビジュアル・アイデンティティは、光と影の二面性から着想を得ています。そして、新鮮で現代的な色彩を用いたメッシュ状のデザインは、地元の工房で作られた繊細な草木染の織物から着想を得ており、デザインに明るさと透明感を生み出しています。また、県北の自然を撮影した写真と組み合わせることで、芸術祭と景観との共生を表現することができます。

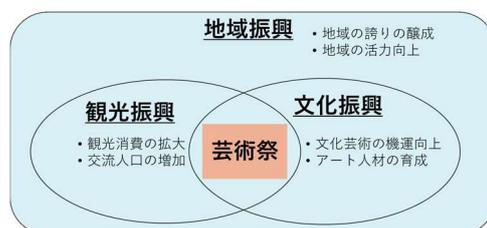
デザイナープロフィール：バーンブルック・スタジオ（イギリス）

バーンブルック・スタジオは、1990年にジョナサン・バーンブルックによって設立されました。デザインは社会にポジティブな変化をもたらすことができると信じ、世界各地でさまざまな文化的、社会的プロジェクトに取り組んでいます。代表的な作品に、デヴィッド・ボウイのレコードジャケットがあり、彼の最後のアルバム「ブラックスター」では、グラミー賞を受賞しています。また、日本との関係も深く、東京の森美術館や六本木ヒルズのブランディングを手がけています。

## 4 プロジェクトの構成

本プロジェクトは芸術祭を核として、観光振興と文化振興の2本の柱から構成し、県北部はもとより県全体の地域振興を図ります。

アーティストとの交流や多くの観光客が地域を訪れることにより、地域住民が今まで気づけなかった地域の魅力を再認識し、地域を愛する心や誇り、いわゆるシビックプライドの醸成につなげるとともに、開催にあたっては、地域づくりに関わる人々をはじめ、多彩な人材とも積極的に連携し、地域の活力向上を図ります。



### <観光振興>

現状の課題として、本県を訪れる観光客は交通網の充実した県南部に集中していることに加え、新型コロナウイルス感染症の影響により観光関連産業は深刻なダメージを受けており、ポストコロナ時代における施策を中・長期的な視点から実施する必要があります。

そこで、芸術祭という新たなコンテンツを起点に、自然豊かで密にならない県北部に観光客を呼び込み、既存の観光資源も最大限活用し、滞在・周遊型の観光振興を図ります。

これにより、県北部のみならず県全体の観光消費拡大及び交流人口増加につなげることを目指します。

### <文化振興>

県北部では、美術館等での意欲的な企画展の開催や、アーティスト・イン・レジデンスなどの多彩な取組により、積極的に地域にアートを取り入れる素地ができています。加えて、近年では、美作三湯芸術温度などのアートイベントが盛り上がりを見せており、アートを活用した地域づくりへの機運が高まっています。

本芸術祭において、国内外のアーティストによる多様で質の高いアート作品に触れる機会を創出することにより、県民のアートに対する関心をさらに高め、県北部はもとより県全体の文化芸術の機運を一層盛り上げます。併せて、多くの県民が本芸術祭に関わることにより、アートによる地域活性化に取り組む人材の育成も図っていきます。

## 5 広報

---

### (1) 方針

本芸術祭は初回開催であることから、まずは地域住民の理解促進と芸術祭の認知度向上に注力し、地域住民に対するプロモーションを実施するとともに、国内外への発信により幅広い層からの誘客と多様な主体の参画に結びつけることを目指します。

また、開催エリアの持つ雄大な自然や歴史ある町並み、食文化などの優れた観光資源をPRし、本芸術祭を起点とした周遊の促進や地域観光のリピーターの増加につなげます。

### (2) 取組内容

開催前年度においては、機運醸成イベントの開催や各種計画の発表等の機会を捉え、行政や報道機関、観光関係団体等の様々なルートから、国内外へ広範囲の情報発信を行います。

多様な広報媒体による情報発信を行う中でも、特にSNSでの情報発信に注力し、開催エリアの地域情報を含めたタイムリーなプロモーションにより、アートに関心の薄い層にも情報を届けられるよう努めます。

また、開催年度においては、岡山県等が実施する観光プロモーションと連携した広報活動を展開するとともに、SNS等での情報発信に加え、ポスターやチラシ、新聞などのオフライン広告も活用し、幅広い層へPRすることにより、芸術祭の開催を盛り上げていきます。

## 6 受入環境の整備・来場者の対応

---

### (1) 方針

本芸術祭の開催エリアは広範囲に及ぶため、エリア内周遊における来場者の利便性向上を図ることがとても重要です。来場者により多くのアート作品と周辺の観光等を楽しんでもらえるよう、交通事業者と連携し、効率的かつスムーズな移動の確保に努めるほか、エリア内の宿泊施設や駐車場設備の効率的な活用も検討します。

### (2) 取組内容

鉄道、バス、タクシー等の交通事業者と連携し、会期中のエリア内周遊促進策を検討するとともに、自然環境に配慮した移動手段の活用などのサステナビリティを意識した対策も検討します。

また、宿泊事業者や市町村等とも連携し、多数の来場者に対応できるよう、宿泊施設や駐車場設備の確保に向けた取組を検討します。

なお、海外からの来場者に対応するため、多言語表記等の外国語対応についての取組も検討します。

さらに、ガイドブックやウェブサイト、エリアマップ、案内看板等により、モデルコースの提案や県内外からのアクセスルートの案内等、来場者にわかりやすい情報提供を行い、アート作品だけでなく既存の観光施設や宿泊施設等への誘客にも努めます。

## 7 サポートスタッフ

---

### (1) 方針

本芸術祭の成功には、多くのサポートスタッフの協力が不可欠です。会期中の運営サポートのみならず、来場者がエリア全体の周遊を楽しめるよう、コンシェルジュとしての役割も期待されます。

これらのサポートスタッフを、関係団体と連携しつつ、幅広い年代から募集するとともに、人材の育成にも取り組みます。

### (2) 取組内容

募集にあたり、県内在住者については、地元町内会や学校、企業、団体への直接訪問による説明の場を設けるとともに、SNSやHPも活用し、県外在住者からの参加も募ります。

来場者の受付、会場案内といった芸術祭運営サポートに加え、周辺観光施設やアクセス方法の案内といった周遊サポートも重要です。多岐にわたる活動内容をカバーするため、適切なカリキュラムを編成し研修を行います。また、サポートスタッフ自身が今後も本芸術祭と地域のファンになってもらえるような取組も検討します。

## 8 企業協力・協賛

---

### (1) 方針

本芸術祭の開催趣旨に賛同する企業の協力・協賛を得ることで、芸術祭の成功と強固なパートナーシップの構築につなげます。

### (2) 取組内容

本芸術祭の開催趣旨に賛同する県内外の企業に対し、積極的に協力・協賛を呼びかけ、より多くの企業とのパートナーシップ構築を目指します。また、各企業独自の事業分野における様々な協力を得ることで、他の芸術祭との差別化や開催趣旨の多角的な実現を図ります。

## 9 鑑賞券・オフィシャルグッズの展開

---

### (1) 方針

来場者の利便性やチケット管理の効率性を考慮した鑑賞券制度を検討します。また、本芸術祭のみならず、地域の魅力も理解できるよう、ロゴマークや地域の特色を生かした魅力的なオフィシャルグッズの開発も検討します。

### (2) 取組内容

他の芸術祭におけるチケットの利用状況等から利用者のニーズを検証し、券種や割引制度、販売期間、販売場所などを慎重に検討することにより、来場者にわかりやすく利用しやすい鑑賞券制度を整備します。

また、オフィシャルグッズの開発について、他の芸術祭における販売状況も踏まえながら、検討を行います。

## 10 文化施設、文化イベントとの連携

---

### (1) 方針

市町村や文化施設、文化団体など、様々な主体の取組と連携し、本芸術祭の開催効果を県全体に波及させ、文化芸術の振興と地域の活性化を図ります。

### (2) 取組内容

県内では、国際芸術祭から地域での文化イベントまで様々な形の取組がなされるとともに、美術館などの文化施設での企画展等も多数開催されています。本芸術祭と親和性の高いこれらの事業と連携することで生まれる相乗効果により、県全体の文化芸術活動の活性化と交流人口の増加を図ります。

各事業を開催する様々な主体に対し、積極的に連携・協力を働きかけ、広く情報発信等を行います。

## 1 1 観光振興事業

---

### (1) 方針

本芸術祭の開催効果をエリア全域に波及させるため、既存の観光資源も最大限活用し、芸術祭を核とした滞在・周遊型の観光振興を図ります。

さらには、観光満足度向上、県全体の観光消費拡大及び交流人口増加につなげます。

### (2) 取組内容

開催エリア内は数多くの魅力的な観光資源に恵まれており、芸術祭という強い訴求力を持つ集客コンテンツの創出により、点在するこれらを結ぶ周遊ルートの造成や一体的な情報発信に取り組みます。

また、観光客の滞在時間延長を図り、観光消費拡大につなげることを目的とし、実行委員会内に設置している観光部会において具体的な事業内容を検討します。

さらに、県や市町村、観光関係団体等が実施する観光イベントや企画、観光プロモーション事業とも効果的に連携し、本芸術祭の開催効果が最大限発揮できるよう努めます。

## 12 スケジュール概要

年	月	取組
2023	4~6	●基本計画策定 作品展示施設検討 招聘作家検討
	7~9	
	10~12	●実施計画策定（参加作家一部発表） プレイベント実施
	1~3	会場運営計画策定
2024	4~6	●詳細計画策定（全参加作家発表） プレイベント実施
	7~9	作品制作
	10~12	芸術祭会期【9月28日（土）～11月24日（日）】
	1~3	●開催報告書公表